



卒業生によるボランティア活動グループわ会報

情報ぎやらりー

第49号

発行日 2010年1月29日
編集 グループ“わ”広報部
発行者 加藤 勇治
発行元 NPO法人社会還元センター
グループ“わ”
TEL (078) 743-8101 FAX (078) 743-3830
Eメール wa_gallery@wa-net.jp
ホームページ http://www.wa-net.jp

平成22年1月1日

2010年の年頭に想う

理事長

(美工一10期) 加藤勇治

新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃はグループわの活動と運営にご理解とご協力をいただき役員を代表して深く感謝申し上げます。

経験豊かなシルバー人材を擁する“わ”の活動は今や各方面から注目され、熱い期待が寄せられる存在となりました。新年に当たり事業の更なる安定成長を期するため、この際会員全員で考えるべき3つの課題について所見を述べさせていただきます。

その1は、「活動を未長く実践するための“組織の絆”」の問題です。

昨年暮、賀川豊彦献身100年記念事業記念式典がポートピアホテルで開催され、グループわが第1回賀川賞を受賞する栄に浴しました。これは中央区会が特別養護老人ホーム真愛ホームに1998年4月から11年間絶えることなくボランティア訪問し、入所者のために尽くされたことが評価された結果です。非常に喜ばしいニュースでした。

長期に亘り誠実に社会奉仕することはなかなか大変なことです。最近グループわでは会員の高齢化が急速に進んで参りました。ある組織のリーダーが突然自宅で倒れ、緊急入院したために組織の活動が急に停滞してしまったケースや、高齢で体力が続かず脱会に歯止めがかからず、遂にボランティアグループを解散せざるを得なかったケースが目立って来ました。お互いが高齢者だけに、健康管理が特に重要なことは当然のことですが、活動が特定の人に過重な負担にならないよう皆でカバーし合うチームワーク、組織の絆が特に重要です。

その2は、「組織を活性化するための“新しい仲間づくり”」の問題です。

グループわは経験豊かで多彩な人材を擁していますが、平均年齢70歳前後という“高齢者集団”であることが“わ”の特徴です。会員のうち高齢

者が順次活動の第一線から離れていきますが、常時若い活力に満ちた新しい人材（新規会員）の補充が伴わなければ組織の衰退は必至です。会員数が1,000名を超えた3年前から会員数の伸びは停滞しており、新規入会者の数は高齢で退会する人数分だけを辛うじて埋め合わせるレベルでこの3年間推移して来ました。ボランティアを志す新会員を組織を挙げて、常時積極的に確保していかない限り、組織の活性化、飛躍は望むべくもありません。新しい活動仲間を単にKSC卒業生のみに絞らず広く一般の方にも対象を広げること、新規会員の勧誘をKSCの卒業シーズンのみに限定せず、常時意識して取り組むことが肝要です。

その3は、「世間の信頼を繋ぎとめるための“活動の質”」の問題です。

団体のレベルは擁する人材次第と言われます。幸いグループわは、経験豊富な多士済々の人材を抱え、総じてボランティア先からその活動ぶりが一応の評価を受けています。

しかしながら、現状に甘んずることなく常に一人一人が向上心を持って精進を重ねなければ世間の信頼を繋ぎとめることは出来ません。「前回よりは今回、今回よりは次回へ」と活動の質を高め、ボランティア先の高い顧客満足度を確保する努力こそが何にも増して大切です。

一人でも多くの方がボランティア活動に加わり、ともに汗を流しボランティア先に喜んでいただける、そんな「環境づくり」「基盤づくり」に本年度も引き続き邁進したいと考えています。

次に今年度の主な事業の取り組み経過と今後の予定について下記に述べます。

区会活性化対策の取り組み

4月以降毎月、本部役員、各区会長総動員体制で集中審議を重ねております。上半期までは対策が机上の空論に陥らないよう区会の問題点再点検に終始しましたが、下半期は8月実施の区会活性化アンケート調査結果に基づき目下具体案づくりに鋭意取り組み中です。

(次頁へ続く)